

RAISING THE
POWER
OF MC

IR事業説明会

三菱商事株式会社 機械グループ

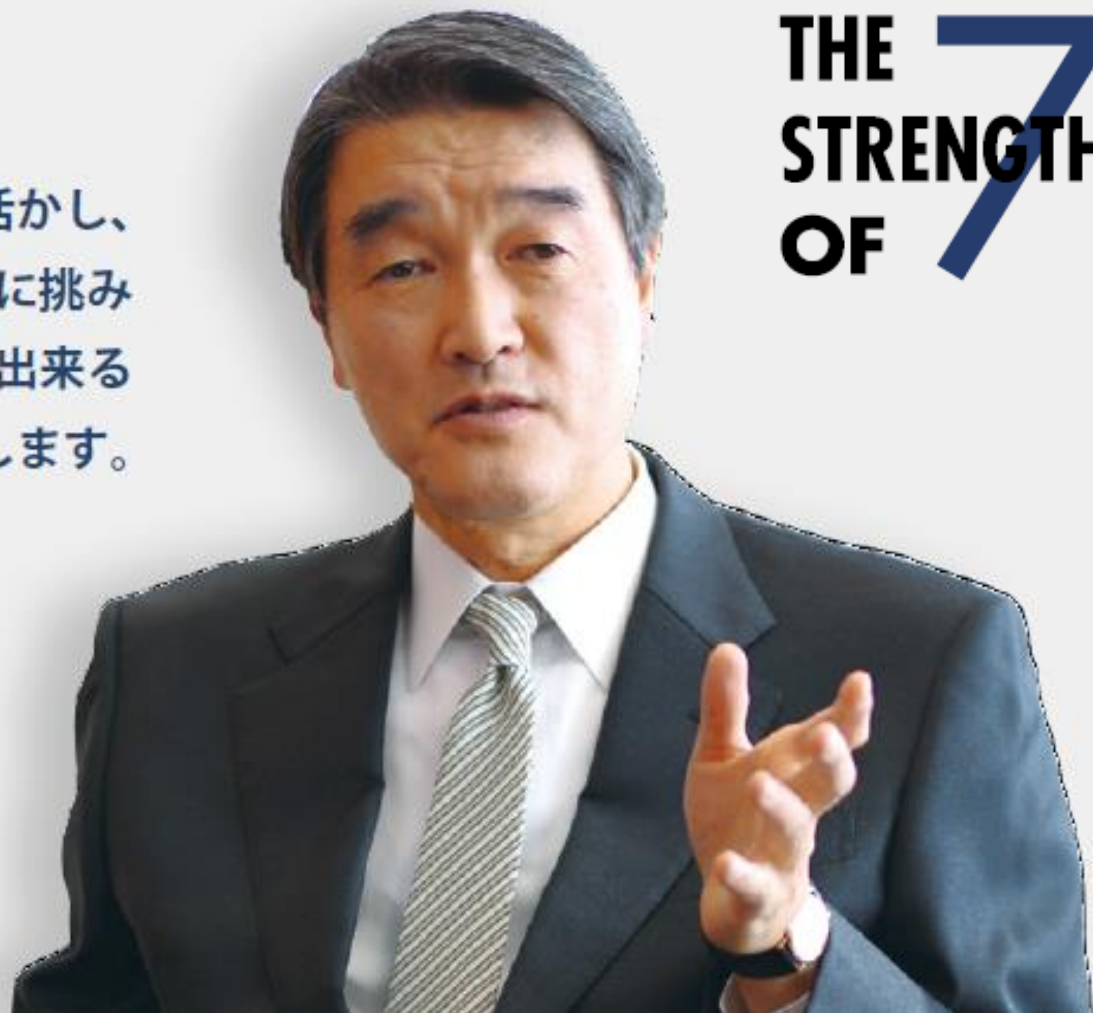


機械グループが目指す将来像

三菱商事の機能とネットワークを活かし、
ビジネスモデルの変革に挑み
将来更なる成長が期待出来る
分野・地域に注力します。

大 河 一 司

常務執行役員
機械グループCEO



THE
STRENGTH
OF 7

アジェンダ

1. グループ概要

- 本部単位の事業概要

2. 中期経営戦略2018のグループ方針・目標

3. グループ連結純利益推移とターゲット/投資計画

4. グループ全体を取巻くリスクと機会

APPENDIX

インドネシア自動車全需、タイ自動車全需、自動車関連事業の世界展開

グループ経営陣出席者

常務執行役員 機械グループCEO

大河 一司

理事 機械グループCEOオフィス室長

中野 智

理事 機械グループ産業機械事業本部長

浦野 輝虎

執行役員 機械グループ船舶・宇宙航空事業本部長

石巻 尚

執行役員 機械グループ自動車事業本部長

中村 達夫

執行役員 機械グループいすゞ事業本部長

若林 茂

機械グループ管理部長

迫田 一郎

1. - ①事業概要（産業機械事業本部）

部

エレベーター事業部
産業設備事業部
建設機械・レンタル事業部

事業内容

- エレベーター、エスカレーターの販売・据付・保守・輸出事業
- 工作機械、農業機械の販売・保守事業
- 建設機械等のレンタル事業、鉱山機械販売事業

主な事業

国内レンタル事業

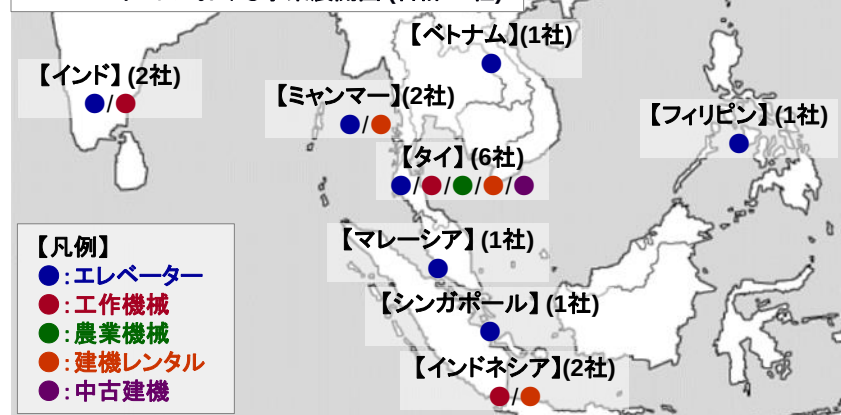
- 東京オリンピック関連投資や首都圏を中心とした都市再開発工事等の堅調な建設市場において、(株)レンタルのニッケンでは、建設、非建設分野のバランスの取れた営業基盤を基に事業を展開
- また、同社では現在AI/IoTを駆使したレンタル事業の高度化、効率化に取り組んでおり、稼働率向上による顧客のトータルコストの低減を目指している



ASEAN・インド展開

- 経済成長の著しい ASEAN・インドにおいて、新規事業会社の設立は略完了。現在は2nd stageとして事業経営を深化させ、事業の更なる収益化に取り組んでいる

ASEAN・インドにおける事業展開国 (合計16社)



1. - ②事業概要（船舶・宇宙航空事業本部）

部

船舶・海洋事業部
宇宙航空機部

事業内容

- 船舶・海洋構造物・舶用機械等の取引、ファイナンス、船舶保有事業
- 防衛関連機器の紹介・導入
- 衛星画像データ処理・加工・販売

主な事業

一般商船事業

- 保有運航船の国内外傭船者向け傭船供与
- 撒積船を中心とした新造船・中古船売買仲介、傭船仲介、舶用機械売買仲介



ガス・海洋事業

- LNG船（液化天然ガス輸送船）の保有・運航事業
- FPSO（浮体式海洋石油・ガス生産設備）の共同保有運航事業



防衛・宇宙事業

- 欧米の最先端装備品・技術の防衛省向け紹介・導入
- 衛星画像販売事業並びに産業用総合リモートセンシング事業



1. - ③事業概要（自動車事業本部）

部

自動車アセアン・南西アジア部
自動車北アジア部
自動車欧州・中東・アフリカ部
自動車米州・豪州部
自動車リテイル・モビリティサービス部

事業内容

主に三菱自動車(MMC)・三菱ふそうトラックバス(MFTBC)製品に関する以下の事業

- 海外現地生産、販売事業
- 海外販売金融等のリテイル関連事業
- 日本・タイ・インドネシア(18年度開始予定)からの自動車輸出(完成車・組立部品・補用部品)

英国事業

現地販売子会社(CCC)を中心とした輸入販売・販売金融事業

中国事業

MMCおよび広州汽車集団(GAC)と共に広汽三菱汽车有限公司(GMMC)にてMMC車組立・販売事業に取り組みと共に2018年度より販売金融事業を展開。
2016年より現地生産を開始したアウトランダーの好調により、2017年は年間12万台の販売を達成。

インドネシア事業

1970年にKTB社を設立、50年近くにわたり自動車事業を展開。2017年4月には取り扱いブランド別に、MMC製品を扱うMMKSI社およびMFTBC製品を扱うKTB社に事業再編。
新工場MMKIにて新小型MPVエクスパンダーを生産し、10月より販売開始し、好調な売れ行き。
生産・販売・販売金融・中古車販売などの強固なバリューチェーンを構築している。

輸入・販売	生産
組立・販売	輸出取引
販売金融	その他

ロシア事業

2009年に現地販売会社(MMCR)に出資参画し、MMC車販売事業に取り組みと共に販売金融事業も展開。同国自動車市場全体の緩やかな回復もあり、17年度は前年度比大幅な販売増となった。

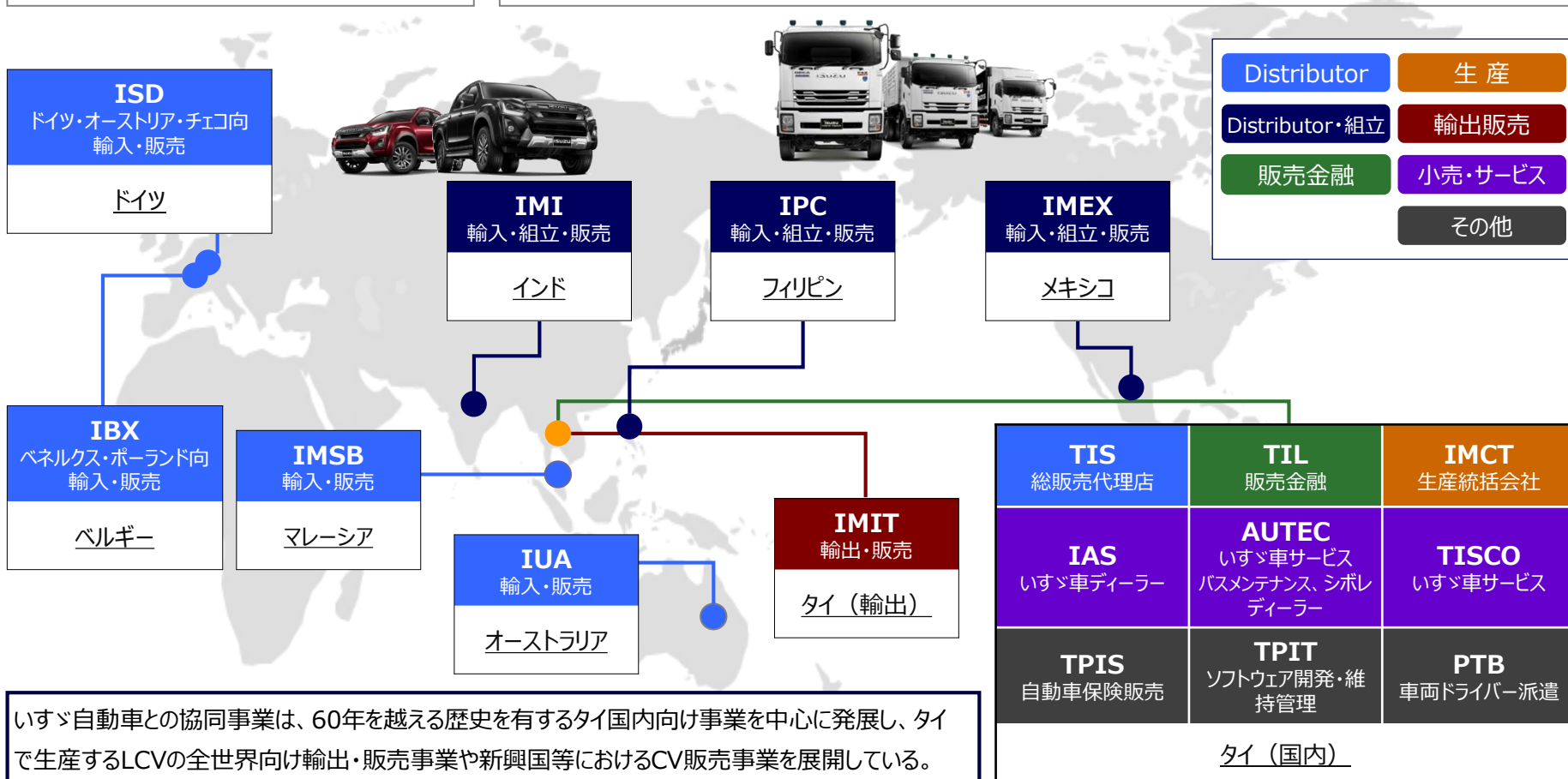
ベトナム事業

現地販売会社(MMV)を中心とした輸入・組立販売事業



1. - ④事業概要（いすゞ事業本部）

部	事業内容
いすゞアセアン部 いすゞ欧阿中東・米豪部 いすゞアジア部	- 海外現地生産、販売事業 - 海外販売金融、アフターセールス等の関連事業 - タイ・日本からの自動車輸出（完成車・組立部品・補用部品）



2. 中期経営計画2018のグループ方針/目標

産業・社会ソリューション提供による更なる成長へ

筋肉質で主体性と柔軟性のある組織として、
「更なる成長」を目指す

連結経営
の強化

1. 事業・資産の入替

2. わが社の強みを発揮できる
ビジネスモデルへの変革

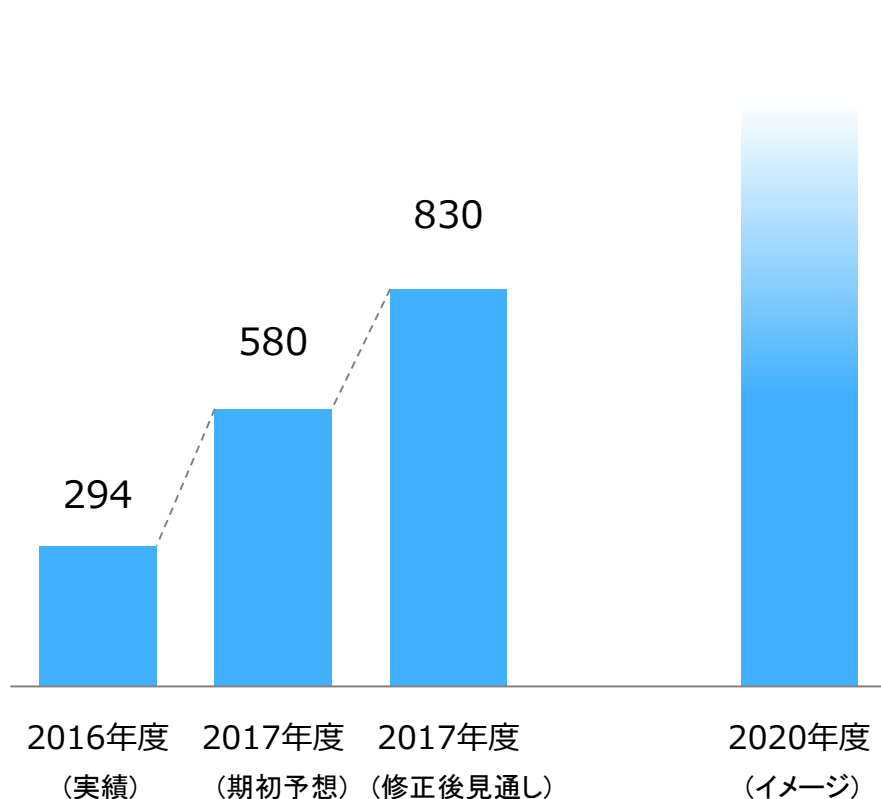
環境変化
への対応

3. 重要地域の強化

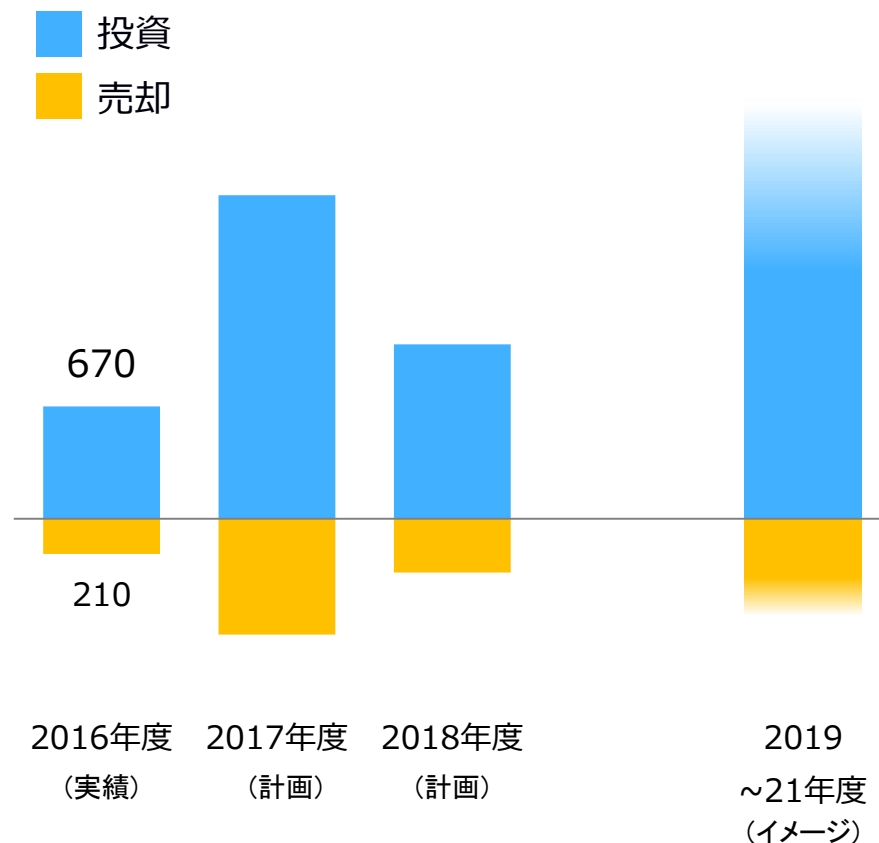
4. 機械グループの
目指す組織の実現

3. グループ連結純利益推移とターゲット／投資計画

< 連結純利益 推移（単位：億円） >



< 投資計画推移（単位：億円） >



4. グループを取巻くリスクと機会

< 外的環境 >

- 成長を左右する要因
 - 新興国経済成長の鈍化
 - シェアリング等「所有」から「利用」への社会ニーズの変化
 - 電気自動車や自動運転の普及等、事業環境の急激な変化
- 注視が必要な要因
 - 突発的な経済異変や地政学リスク顕在化の可能性
 - バリューチェーンにおける付加価値の源泉の変化
 - AI/IoT等の普及による競争条件の急変

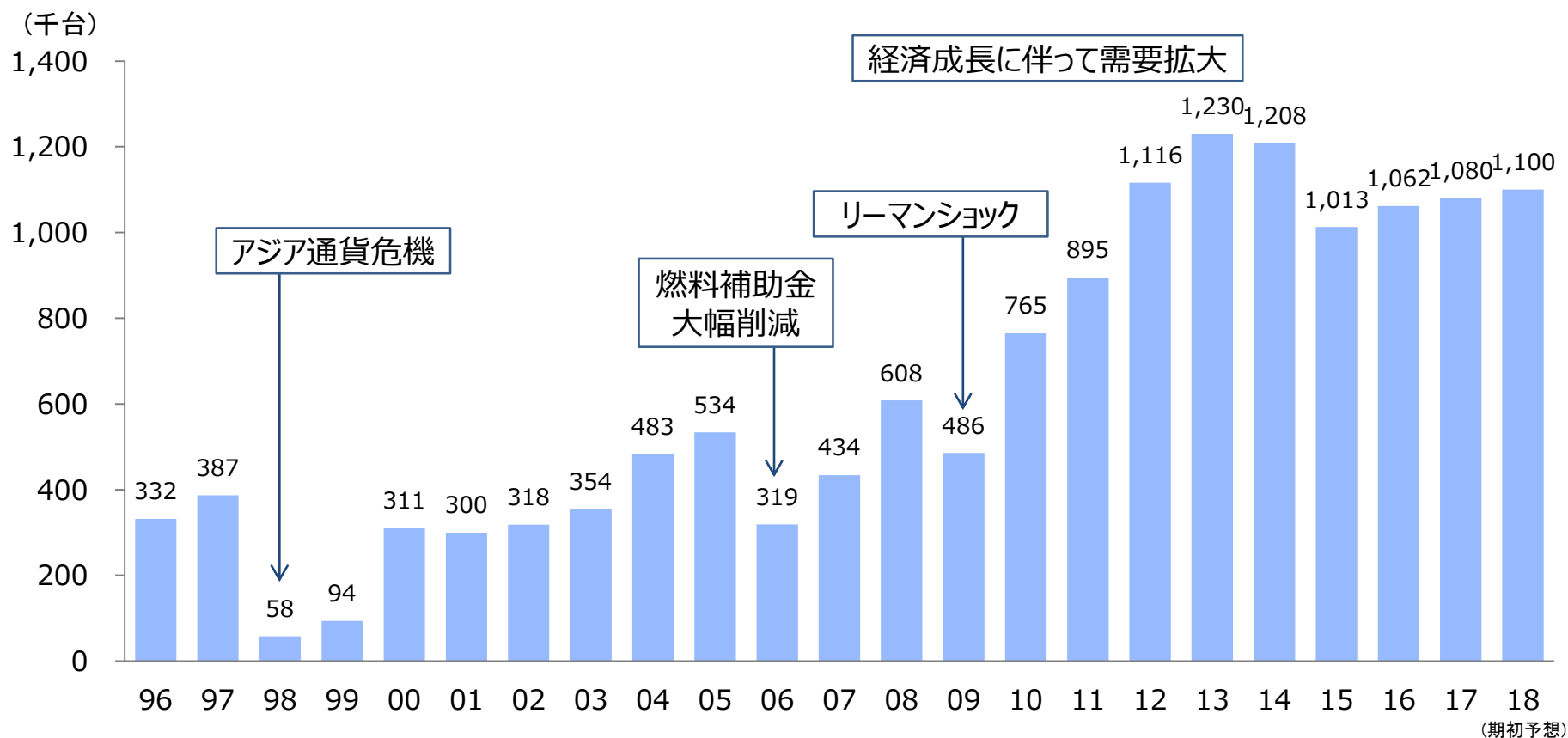
< 内的環境 >

- 「事業経営」へのシフト
 - 経営人材の育成加速に向けた事業現場経験の早期化・拡充
 - 事業ライフサイクルに応じた経営資源投入の徹底
- 事業環境変化への対応
 - 組織と個人の中長期的成長に資する施策の進化
 - 連結ベースでの機能の高度化

Appendix

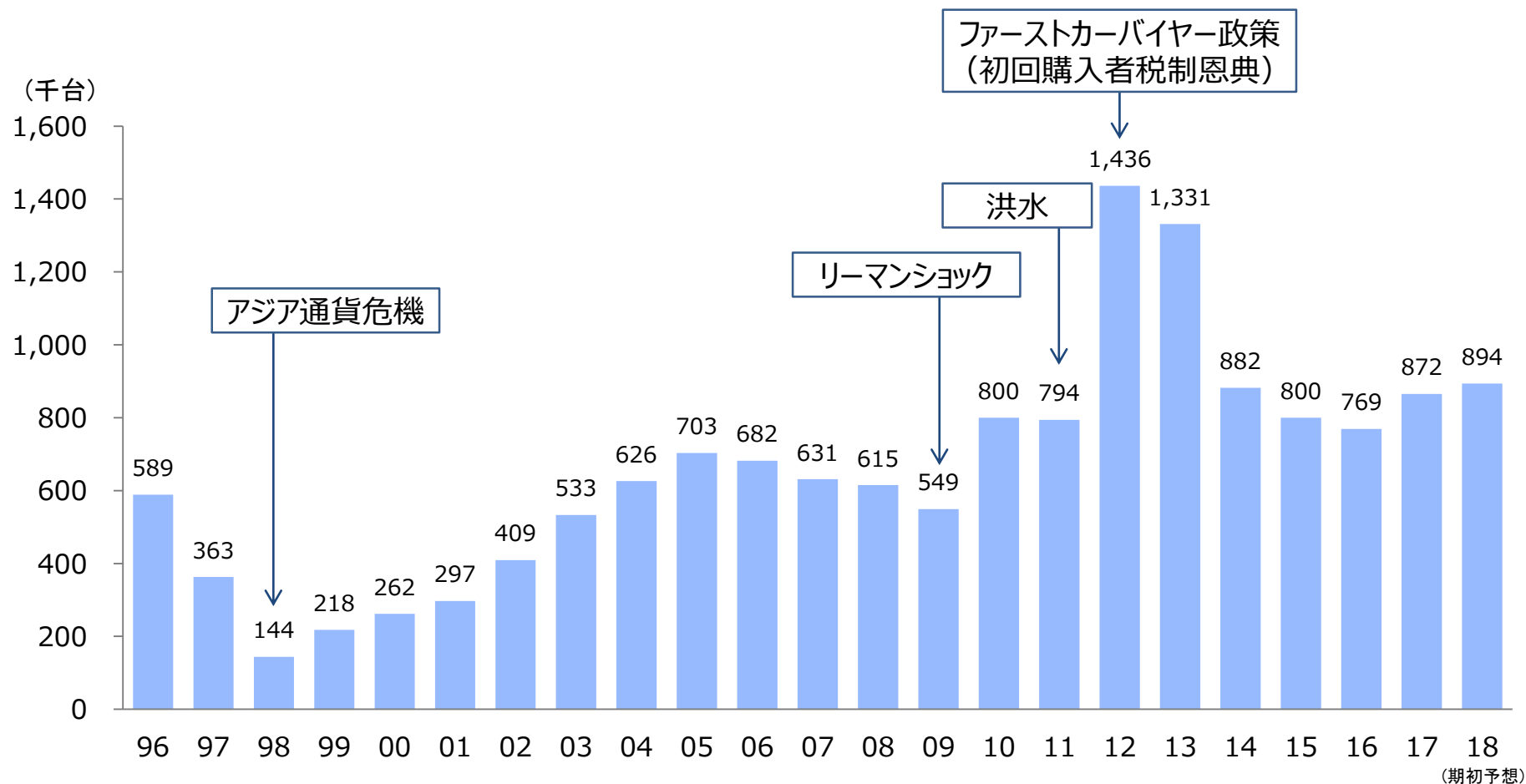
<参考> インドネシア自動車全需の動向

2018年の期初予想の自動車全需は110万台（インドネシア自動車工業会）



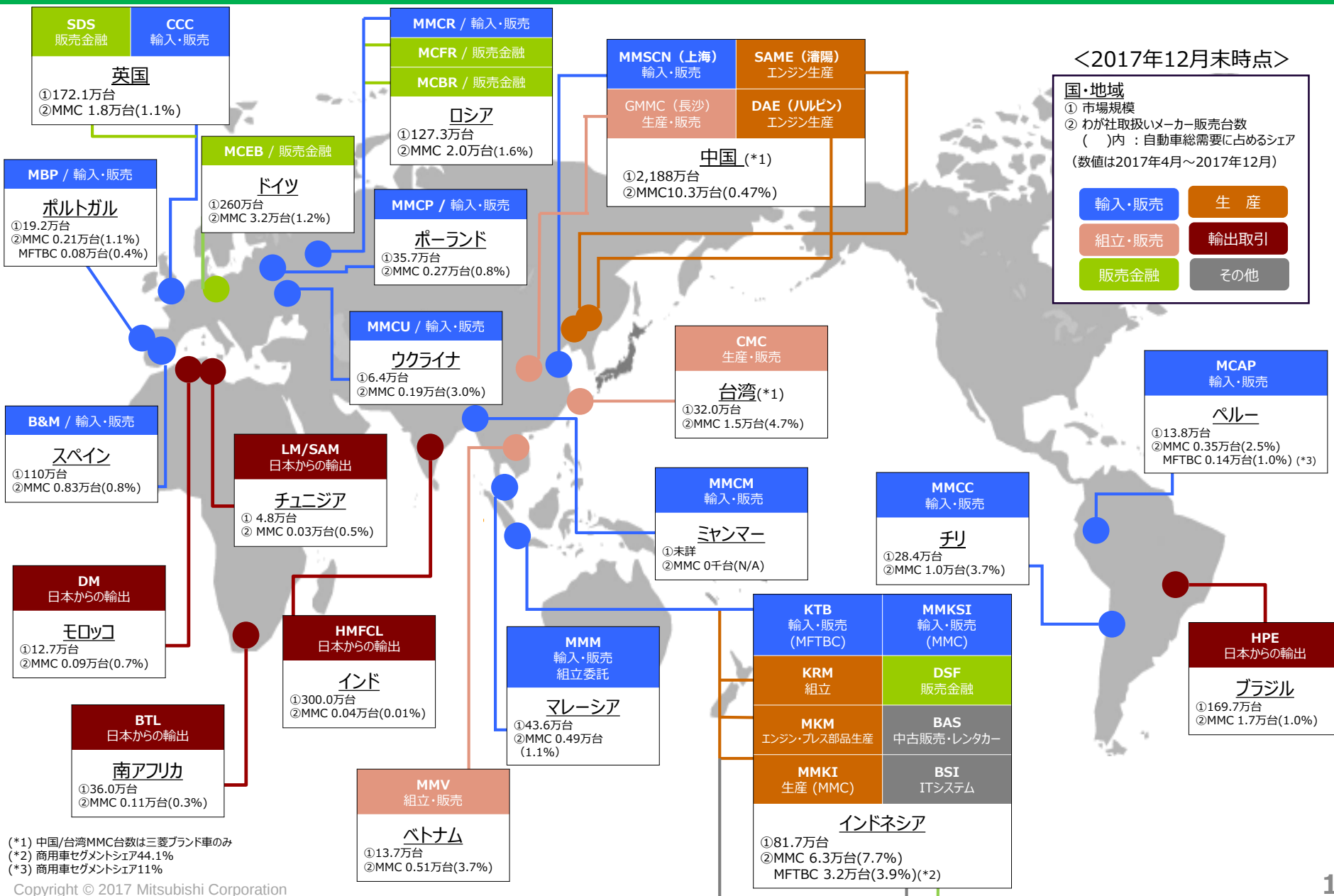
<参考> タイ自動車全需の動向

2018年の期初予想の自動車全需は89.4万台



自動車関連事業の世界展開（三菱自動車・三菱ふそうトラック・バス 関連）

機械グループ



自動車関連事業の世界展開（いすゞ関連）

機械グループ

LCV: Light Commercial Vehicle(小型商用車)



CV: Commercial Vehicle(商用車)



<2017年12月末時点>

Distributor	生産
Distributor・組立	輸出版売
販売金融	その他
小売・サービス	

いすゞ車販売台数
(2017年度第3四半期累計)

ISD
ドイツ・オーストリア・
チェコ向
輸入・販売

ドイツ
LCV 1.0千台

IMI
輸入・組立・販売

インド
LCV 3.4千台

IPC
輸入・組立・販売

フィリピン
LCV 15.3千台
CV 5.3千台

IMEX
輸入・組立・販売

メキシコ
CV 2.5千台

IBX
ベネルクス・ポーランド向
輸入・販売

ベルギー
LCV 0.6千台

IMSB
輸入・販売

マレーシア
LCV 3.9千台
CV 4.4千台

IUA
輸入・販売

オーストラリア
LCV 21.3千台

IMIT
輸出・販売

タイ（輸出）
LCV 輸出台数
CBU 57.4千台
KD 52.0千台

CBU: 完成車
KD: 組立用部品

TIS 総販売代理店	TIL 販売金融	IMCT 生産統括会社
IAS いすゞ車ディーラー	AUTEC いすゞ車サービス バスメンテナンス、シボレディーラー	TISCO いすゞ車サービス
TPIS 自動車保険販売	TPIT ソフトウェア開発・維持管理	PTB 車両ドライバー派遣
<u>タイ（国内）</u> 市場規模 654.5千台 LCV 107.9千台 CV 11.0千台		

いすゞ自動車との協同事業は、60年を越える歴史を有するタイ国内向け事業を中心に発展し、タイで生産するLCVの全世界向け輸出・販売事業や新興国等におけるCV販売事業を展開している。